

## はじめに

兵庫県森林動物センター（以下、研究センター）は、ワイルドライフマネジメントに係わる研究成果を、野生動物の保全と管理に関わる業務を行っている行政担当者や実務者、技術者、研究者などへ実務に有益な知見を提供することを目的として、平成20年度から「兵庫ワイルドライフモノグラフ」を刊行してまいりました。今回、第18号は「兵庫県における野生動物管理の到達点と今後の課題」特集して6編を収録しました。

第1章から3章は、特定鳥獣管理計画（特定計画）に関するものです。兵庫県では、個体数調整と農林業被害の軽減を目的として、2001年からニホンジカ、2003年からクマ、2008年からイノシシとニホンザルの特定計画を策定し運用してきました。第1章では、これらの4獣種について、鳥獣保護管理法へと改正された2015年以降の第二種特定計画の策定と運用の経緯ならびに課題を整理し、改善に向けた方向性について検討しました。兵庫県では1期5年の特定計画を策定し、最新のモニタリングデータに基づいて年度別事業実施計画(年度計画)を策定して当該年度の管理方針を決定しています。第2章では、上記4獣種の特定計画と年度計画について、計画が内包する因果仮説（セオリー）と、それを現場で成立させる実施過程（プロセス）に着目して整理・評価し、年度計画における改善可能性を検討しています。第3章ではニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマの3獣種における個体数推定のためのモニタリング、推定手法、個体数の管理方針を論じています。兵庫県では個体数推定や生息状況把握に基づき、野生動物の個体数管理の方針を決めており、シカの捕獲強化による増加の抑制や、クマの個体数回復とその後の管理強化への転換は大きな成果として挙げられます。

第4章と5章は都市部や生活圏・周辺部に侵出・定着した野生動物を扱っています。第4章では、最近の10年間ほどでシカ、イノシシ、アライグマの3種すべてが兵庫県の都市部周辺および内部へと分布を拡大し、アライグマが最も都市内部まで侵出し、次いでイノシシ、シカの順となっていることを紹介しています。第5章では人の生活圏とその周辺で捕獲されたツキノワグマは、高栄養の餌を利用することによって栄養状態が極めて良好であることを紹介しています。野生動物の分布が人の生活圏にまで拡大・定着した結果、野生動物問題が都市部にまで拡大していることが明らかになりました。

第6章ではニホンザルに装着したVHF発信機による追跡を基盤とした追い払い・簡易型電気柵・選択的捕獲を組み合わせた総合管理や、GPS首輪による高精度な位置情報共有は、被害対応を事後的対応から予測的介入へと転換したことを紹介しており、動物の位置情報の把握が効果的な管理に繋がることを明らかにしています。

以上の特集号の内容から、研究センターによる長期モニタリングと施策の効果検証をもとにした、現時点での野生動物管理の到達点と今後の課題を理解していただけたら幸いです。

兵庫県における野生動物管理の到達点と今後の課題

---

目次

第1章：兵庫県における第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ・イノシシ・ツキノワグマ・ニホンザル）の概要と今後の課題	1
尾畑俊彦・野口和人・河野賢治・吉崎正美・石井淳・山端直人	
第2章：プログラム評価の手法を用いた兵庫県の特定鳥獣管理計画の政策評価	22
山端直人	
第3章：兵庫県におけるニホンジカ・イノシシ・ツキノワグマの 個体数推定と保護管理政策への貢献	35
高木 俊	
第4章：兵庫県の都市部におけるニホンジカ・イノシシ・アライグマの 分布出没の経年変化と市町の計画策定状況	54
栗山武夫・高木 俊	
第5章：人の生活圏に生息するツキノワグマの栄養状態	76
横山真弓・中条寧々	
第6章：ニホンザル被害管理における管理技術の展開と課題 一群れ位置情報に基づく被害管理の実践事例	94
森光由樹	